



SFS通信

平成26年6月25日発行(2014)

日本ボーイスカウト新潟連盟

スカウトフェロウシップ委員会

編集長 杉山 剛

〒959-2658胎内市西条602-11

TEL & FAX 0254-43-4879

事務局 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4の町

TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

新潟連盟 平成26年度年次総会

(6月1日新発田市地域交流センター)

井上理事長挨拶:不易流行を胸にスカウティングに励もう。スカウティングは今の世の中に必要なものであるとの確信を持ってスカウトと共に歩んで行こう。

平成26年度事業方針

事業スローガン:

スカウト運動の基本に基づいて、より良いスカウトを育てよう! ~まずは班制度の徹底! ~

具体的な事項は、理事会配布の県コミッショナー活動方針に分かり易く示されているので紹介する。

①23WSJを力を合わせて成功させよう!

②団・隊の活動の活性化を行う。(コミッショナーズ パッション)

(イ)地区円卓会議でのプログラム研究 (ロ)団活動実態調査 (ハ)団訪問

③加盟員1000人以上の確保に努める (イ)新入隊員増・途中退団減 (ロ)隣接隊との合同集会

④指導者の資質向上 (イ)WB実習所

⑤スカウト基本動作の徹底 (イ)日連発行冊子を基本とする(各団に配布)

各運営委員会(抜粋):

進歩委員会:WSJを機に1級スカウトとVS章の修得へ。

健康安全委員会:H25年度の保険申請4件 大会の時AEDをレンタルで準備したい。

財政委員会:加盟員数減少により県連財政が厳しくなった。登録費値上げの提案もあったが、維持財団から更なる援助をお願いすることで値上げを回避するべく努力する。

組織拡張委員会:広報講座Ⅲを検討する。

国際委員会:WSJ前にホームステイ40人の見込み。受け入れ態勢を整える(長岡~新潟~新発田)

別件でロシア(ハバロフスク)小4-6年 (1泊2日)主に新潟地区で受け入れ

23WSJ特別委員会:現在スカウト申し込み16名。WSJの魅力をもPRするため各地区を回りたい。

申し込み期限を6月20日まで延長する。国際交流をキーワードに野行とも連携する。

ときプロジェクトⅡを企画中。

事業予定(総会以降分):

理事会: 10月5日(長岡四郎丸コメン) 1月19日(新潟市)

WB実習所:BS課程(五頭連峰少年自然の家)10月10~13日

BS講習会:7月6日(上越) 11月8日(新潟) 11月30日(中越)

団委員・指導者会同:1月31日-2月1日(場所未定)

安全セミナー:6月8日(マルユウ研修センター) ゲーム研修会:3月1日(大畑少年センター)

スキルトレーニング(救急法):3月28-29日(大畑少年センター)

カブビーバーラリー:9月7日(新発田市 真木山公園)

ボーイラリー:6月29日(新潟市鳥屋野湯公園)

表彰:

かつこう章 杉山剛氏(中条1)
 隊褒章授(60年) 長岡3団BS隊
 隊褒章授(60年) 柏崎2団BS隊
 隊褒章授(55年) 新潟9団BS隊
 隊褒章授(50年) 糸魚川1団CS隊

隼章: 辰口 智太(長岡1)

菊章: 大塚 蒼(新潟15) 大関 啓史(新潟5)

休団:

下記の3団が休団となりました。
 佐渡第1団 上越第5団 新井第1団
 上記により、上越地区は2コ団体制となりました。少数精鋭の気持ちで活動に邁進されることを祈っています。

参考までに新潟は12コ団 中越は10コ団
 下越は4コ団です。

SFS委員会 役員会報告 (4月6日 クロスパル新潟)

1. 役員

委員長 星 栄一 (長岡1)
 副委員長 藤塚 大蔵 (新潟7)
 々 杉山 剛 (中条1)
 事務長 齋藤 真憲 (新潟11)
 会計 々
 監事 大山 恵右 (糸魚川1)
 小林 敏男 (長岡3)
 鈴木 正 (長岡3)
 金井 勝代 (小千谷1)
 佐藤 英行 (中条1)
 西山 好秀 (長岡1) 新任
 松矢 光一 (上越3) 退任
 相談役 杉山 晃 (新潟16)
 高橋 剛 (新発田1)
 遠藤 安一 (長岡1)

2. 会合・行事予定

SFS通信発行と退会時の入団勧誘を継続する。
 役員会は、県連理事会又は大会に合わせて実施
 4月06日 委員長会
 6月29日 役員会(BSラリー)
 7月 SFS通信34号発行
 9月7日 役員会(CS/BVSラリー)
 9月 SFS通信35号発行
 10月05日 委員長会(理事会 長岡)
 10月07-08日(新潟地区担当)
 12月 SFS通信36号発行
 1月18日 委員長会(理事会)
 3月 SFS通信37号発行

3. 予算

ラリー参加行事での弁当支給はしない。
 旅費は高速料金分のみとする。
 (年度末 決算状況を勘案する)

SFS全体集会 迫る！！

毎回 好評を戴いている全体集会の日程が決まりました。10月7-8日(火-水)

今回の担当は、新潟地区です。全県から集まり易い場所になります。

ほんわか〜とした楽しい会ですので、初めての方も是非！！お待ちしております。

詳細は次号(9月発行予定)にてお知らせします。皆様のカレンダーに赤鉛筆でご記入ください。

33号では齋藤真憲さんより、ご自身の宗教生活についてのお話を戴きました。確立した信仰をお持ちの齋藤さんのお話が少々難しいのではと編集子の勝手な思いから、再度齋藤さんにお話しいただきました。

また、高橋さんからは自然宗教観についてお話しただけでした。低レベルとおっしゃっておられますが、そうは思いません。信仰のレベルとは思いの深さのレベルです。決して形而上学的緻密さに惑わされてはいけないと思います。

SFS通信では信仰奨励章取得を応援しています。具体的にはスカウトに日々接しておられる指導者に”信仰とは何か・・・”についてお届けしたいと思っています。

皆様からのご意見をお待ちしています。

〈編集長より〉

低レベル信仰論

下越地区協議会長

高橋 剛(新発田1)

宗教は創唱宗教と自然宗教の二つに分けられ、前者は、教祖があつて、経典・教義があつて、信者があるものだそうです。日本民族のほとんどは、この宗教の範疇に入るとれかを信仰しておりますが、実際にとっている態度は、葬式だけはそれによるとして、大晦日にはお寺の除夜の鐘を聴いて煩惱を払い、元旦には神社に参拝し、クリスマスにはキリスト様の誕生を祝つてご馳走やケーキを頂き、地鎮祭、棟上げなどは神式、結婚式はクリスチャン風、更にこの頃は、商業的な仕掛に乗せられて、バレンタインだ、ハローウィンだと、極めて多神信仰的なものであります。

さて、冒頭にあげた後者の自然宗教ですが、これは、何時、誰によって始まったか分からない、意識的に先祖から引き継がれている、今も続いているもの、と定義されております。

自然宗教的に、我が国には古来、やおよろず(八百万)の神がおいでです。“やおよろず”は“多い”との意味ですが、数字的には新潟県民の実に3倍以上もの神様が存在されることとなります。現代では、お釈迦様、キリスト様共々、神様集団をおつくりになっていることとなります。

古来の神々にはそれぞれご担当がおありです。自然系の水神、火の神、山の神、田の神、森の神、設備系の台所の神、トイレの神、負の

領域の貧乏の神や疫病神、更に各種の道具や食物の諸々の神がおいでとなります。

八百万の神への信仰には伝統的なお祭り儀礼は勿論、これらの神様に「誠をつくす」ために日常的に心掛けるべきことがあります。すべてのものは、神様が管理されているものですから、自然系では畏怖と親和の念を、設備系では機能維持と清潔を、負の領域の神にはお世話にならないように、また、多数派の道具、食物の神には、不必要なものは所有しない(Reduce)、大事にして再使用する(Reuse)、不要になったら一旦資源にもどして、別の神様の管理下に移す(Recycle)の3Rです。食物に対しても同様ですが、このために捧げて戴いた命への感謝の念を加えなければなりません。即ち、「勿体無い+感謝」の精神であります。食事時には、残さず頂くのは当然のこととして、この感謝の念を前後の「頂きます」と「ご馳走さまでした」の唱えで表し、神と命への敬意のため、正装(制装)着用とまではしなくとも、せめて脱帽だけはすべきことと思います。これだけは、当団スカウトには徹底させております。

創唱宗教の神様(仏様)のご担当は魂の高度の管理ということになりましょう。高レベルですので、「誠」のつくし方はその方面ご専門の聖職者や先達の皆様にご指導を仰ぎたいと思います。

以上、独断と誤解に満ちておりましたが、私の身の丈に合った、自然宗教的低レベルの信仰論を開陳させて頂きました。

齋藤先生の33号(7～10頁)に掲載の信仰指導に関するご所見、大変有り難く教えられること大なるものがありました。その通りだと強く頷けることの多い中、信仰奨励章取得を応援するSFS通信の編集長としていま一つ踏み込んで戴ければと思うこともありました。そこで、私が質問し、それに先生がお応えになると言う形で、もう少し突っ込んだお話を伺えたら、各団での活動にお役にたてるのではないかと思います、先生にご相談申しあげたら何とご了解を戴けました。この形が続けられるか否かわかりませんが、先ず一度やらせていただくことにしました。読者の方も質問があればご遠慮なくご連絡ください。歓迎します。編集長より

信仰奨励について(SFS通信33号 齋藤真憲氏のご所見に対して)

SFS通信編集長 杉山剛(中条1)

<強く同感したこと>

①8頁左24～33行 他の宗派宗教に対して敬意を払うこと。

…信仰者の真の姿だと思います。多くの宗教の求める人の道は、語り口は違っても、同じものと言えるからです。

②8頁右26～27行 人格と人格の触れ合いの中でしか真っ直ぐには育たないもの

…BS指導者が善き人格者であろうとする姿勢が大切ですね。

③9頁左14～16行 家庭で祈りや感謝を捧げ、自省する場のあることは最大の信仰指導の要点ではないだろうか。

…本来あるべき姿なのだと思います。BSはこのことに貢献できる立場だとも思っています。

④9頁左18～20行 信仰とか奉仕と言うのは、それ自体が楽しい事なのであり、それが出来ること自体が尊く有り難いことである。

…実感しています。BS指導者であること自体、幸せなことだと思っています。

⑤9頁右21～25行 教育とは本来 ”人と人の和、人と人との間の調和の心” ”森羅万象に対する感謝と慈しみの心” ”自然の摂理に順応し、感謝しつつ愛でる愛と美の心” ”真理への憧憬と畏怖の心”等を学び合うこと

…BSも全く同じです。

⑥10頁左1～4行 その掘り起こし作業は大変な事柄であろうとは思いますが、スカウト活動の中でも無ければ出来ない事柄なのです。学校教育では到底無理です。

…このためにスカウト活動があると思います。

⑦10頁左24～29行 私達は信仰心の醸成とか信仰教育と言うのは、その宗派や教団の教義を理解できれば良いという程度のものではなく、…実践活動であり、その意味でも指導者とスカウト達との共育であるべきもの…

…指導者も共に成長して行ってこそBS。また特定の宗教の教義を教える必要は無いとも思います。

<伺いたいこと>

①7頁右34～8頁左3行 信仰や奉仕に重きを置かない友人に対して反発や説得をしなかった事にある程度満足した。

…相手がもう変わり様が無い(仏教的には縁なき衆生)と見られたのでしょうか。それとも本来説得などと言うものは効果は無いと言うことですか。

②9頁左26～28行 現今の日本での信仰指導とか信仰醸成というのは土の無いコンクリートの地面に種を蒔く様なもの

…ここがポイントです。ではどうすればよいのでしょうか。9頁5行目にあるように、土壌を耕し直さねばならないのでしょうか、耕し直すとはどのようなことですか。

③9頁右29～31行 日本連盟が本気になって信仰奨励に立ち上がるのであれば、上述の事柄から始めるべきではないでしょうか。

…日本連盟は関係ないと思います。現場を預かる各隊がその気にならなければ日本連盟は何にもできません。②を具体化してすぐ始めたいのですが。

④10頁左6～10行 上述の道程を踏み越えて来た指導者でないと信仰をスカウト達に理解し、実践して頂くのは無理の様に思われます。格好だけで良いなら、それでも宜しいでありましょうが。

…ここが一番気になりました。指導者を応援しておられるのか分からなくなります。上述の道程という事の内容をもう少し詳しく教えてください。

⑧10頁左33～右5行 人格者と言うのは如何なる……特に信仰を表面に見せなくても、その精神構造や実践生活の根底には、信仰心やそれに……私達が健全な市民を育てたいと言う願いは、この人格者に育ててほしいと思い、その道筋を私達の後ろ姿で示す事にあると思います。

…全くこの通りで、BSの基本文言にしても良い程です。

編集長からの質問に答えて

団委員長 齋藤 眞憲(新潟11)

質問①について

“人を見て法を説け”と言う表現がありますが、私が彼の発言に対し敢えて応酬しなかったのは、私が彼のことを見下して相手にしなかったということでは全くありません。そんなことをしたら大変に傲慢な態度と言うことになります。長年のお付き合いで、気心も知り合っていますし、お通夜や告別式にもちゃんと出席する人ですから、目に見えないものを全く信じられない訳ではないのです。ただ宗教や信仰者のもつ何となく堅苦しい雰囲気や、ともすれば狭くなる視野や、信仰に熱心な余り一生懸命すぎる説得に走りがちな行動、押し付けがましき、その宗教組織に職業として関わっている人達の日常や、難解な教義や締め付けが嫌いなのです。彼に限らず特に宗教に反感を持つ人達は、献金・喜捨・お進物・お布施というような事柄にも疑心があるようですし、その使われ方に対しても強い不信感を抱いているようですから、充分疑義が晴れるのを待って、自ら話を聞いて来る様になる迄、彼との宗教論は勿論、奉仕と言うような話題を持ち出すのは待っている方が良いのではないかと、そんな軽い気持ちであったのです。

信仰に不信感を持つ人達が多くおられるのも無理はありません。本当にこれで人々を導く人なのかと思う様な人もいますが、そんな不信感を抱かせる人達を私達が裁く必要もないのです。神様や仏様にお任せして置けば良いのです。”祖師は紙子の白木綿”などと言う質素、清廉な生き方をして行ける時代環境では最早ありません。そんな生き様に越したことは無いでしょうし、幾分の憧憬もありますが、程々なのです。

信仰や宗教には献金とかお布施に関わるものが多々あります。安寧で、平和な世界を作るには資金が必要なのです。その為に献金やお布

施をさせて貰っているのです。その使われ方なんかはそんなに問題にすべきでは無いのです。私達の捧げる誠心は神仏に通じているのですから。それで良いのです。それが信仰なのです。

また、繰り返しになりますが、あんな書き方をしたのは“縁と浮世は末を待て”と言う積りであったからです。何時かは理解して貰える時が来るかも知れない。その時を気長に待った方がお互いに紳士的でおられると思っているからです。何も事を急いで言い争ってまで結論を出す必要も無い事だからです。

人間は全て神様から作り出されたものであると私は思っておりますので、全ての人が必ず神様と因縁の縁が繋がっていると信じています。必ず神様に心が向く時が来て、信仰的に芽生えて来てくれる筈なのです。それがどの宗派になるかは分かりません。時期が全てを解決してくれる筈なのです。

いずれにしても人様に信仰を勧める場合は、少しでも興味を示して下さるか否かです。興味もない人に折伏を試みる程無駄なことは無いと私は思います。むしろ、信仰を勧める場合には“撰受の道”を選ぶべきです。相手の言い分に逆らう事なく、その主張や行動に理解を示しながら聞いてあげる事も、むしろ自分の信仰の真髓を知って貰えるやり方かも知れません。本当に自分の信仰や宗教に自信のある人は、その言動や人格に自ずから相手を納得させ、どんな信仰をこの人は持っているのだろうか、返って逆に思わせるようなものが滲み出て来るものと思います。その人と居ると、春風に吹かれ、包まれる様な暖かさや心地好さを感じさせる人柄を備えていれば相手も興味を持ってくれると思います。その春風のような人物になる努力をするのが信仰を持つ人の務めだと思います。

「宗教」と言うのは、本来が”目には直接見えない、崇高で、最貴・最奥の存在”、それを私は神様と呼ばして戴いておりますが、人によっては、それこそが仏様であると言う場合もあると思

います。その神様や仏様が、様々な地域の夫々の民族に、その風土や環境、時代的な必要に合わせて、夫々の宗祖、開祖を通して教えを広められたものと思っています。そして、その神や仏を求める人達が時代の経過と共に居なくなり、消滅して行った多くの宗教もあった筈です。そんな中で、現在も存続し続け、多くの人達の尊崇を受け、人々の信仰の対象になっているのであれば、それはそれで大変な働きをしている事になります。従ってその宗教なり、宗派は、その信仰者の素質や本質に適っており、その人の因縁なのです。ましてや、夫々の宗教や宗派が人類社会の平和や安寧、発展、分け隔てのない社会の建設を目指しているのであれば、尚更のこと優劣を競う必要もないですし、自分の方に無理やり靡かせる必要も全くありません。

自分の教団の教えを簡単にお話して置いて、相手が興味を持って更に深まった話を求めて来た時にその先のことをお話すれば良いのです。

しかし、そのためには、自分がどんな宗教や信仰をしているのかを周囲に分かってもらえる試みはしっかりとっておかねばなりません。その信仰に繋がる事によってどんなに自分や家族が幸福であるか、感謝と喜びに満ち溢れているか、利他愛人の行動を少しずつでも積み重ねていけるのかを見て戴くことより確実な方法はありません。そのためにもスカウトリーダーは人格・識見・信仰心が必要だと私は思っています。とにかく人々の師表に立とうとする人は自分の後ろ姿に他の人を納得させられる何かを持てる努力をしなければならないでしょう。

信仰的にもリーダーになると言う事は、本当に責任重大なことです。お前はそんな努力をどれだけしているかと言われると、私は一つや二つの穴では到底間に合いませんが、でも志は持っているつもりです。

質問②について

人格者であることへの努力は直ぐ出来ると思います。常に善行を思い、実践することです。そして日々教養や識見、視野を少しずつでも積み上げ、広げ、自らの仕事を天職使命と信じ研鑽努力、誠を尽くす事です。これは各自の自覚で幾らでも推進できる事です。が、ここまでです。ただ単に仏像を作ったにすぎません。本当の仏像と言うのは魂を入れる開眼儀式が必要です。本当の人格者と言うのは、この魂を入れる儀式がきちんと出来ている人なのです。外見的看着て素晴らしい人格者に見えても、それはひょっとすると自己顕示欲の強さが秘められているかも知れませんし、もっと酷く言えば偽善者かも知れません。ですから本当の人格者と言うのは、その中心に信仰心があることによって、本当に輝き出るもの(オーラ)が出て来るのでしょう。心の底から、打算では無く、世のため人のために尽くしたいと言う心が湧き出て来ている人に接すると本当に清々しい思いがし、頭が下がり、見習わせて戴かねばならないという感激が持ち上がってきます。しかしこのような人の数が信仰を持っていると言う人達の中にも少なくなっているように私は感じているのです。

ここ何回か繰り返した大地震の中で、本来農耕民族である日本人の魂の中に秘められている助け合いの心は明確に蘇ってきていますが、未だ未だ“他人の苦しみや悲しみを自分のものとする”と言う心は全ての人に蘇っている訳でも無さそうです。一時の、その場だけの行動に終わっている場合も多く見られるようです。

助け合いの心は、お互いに感謝の心を生み、育み、家族の繋がりを大切に、そしてそこ迄作り上げて来てくれた祖先への感謝報恩の心をしっかりと根付かせて来ていた筈です。そして、一切を包み込んでいる大自然に対して、その恵みや猛威と共に並々成らぬ感謝と畏敬を覚えていた筈です。そんな中で神が生まれ、仏の教えにも馴染んで行ったものなのでしょう。ですからその

様な生活習慣を日々家庭でも実践できる場所が各集落にも、町にも、どこかしこに必ず有った筈ですし、心の目を開けば未だ未だ有る筈です。

私の経験から言えば、子供の頃友達の家遊びに行っても、大抵は神棚があり、仏壇がありました。遊びに入る前に、軽く頭を下げる位はやっていた記憶があります。私の家でも勿論神棚も仏壇もありました。おやつは先ず神様や仏様にお供えしてから分けて貰いました。学校から帰って、“おやつは！”と言うと、必ず”お供えしてあるよ。お下げて戴きなさい。お姉さんの分は残しておいてね”と言われたものです。必ず神仏に挨拶することや感謝すること、そして分かち合うことを毎日、自然な習慣として教わってきました。当たり前のことだったのです。

私が、“コンクリートの上に種を蒔く様なもの”と言ったのは、このような土壌が、今日の日本の家庭の多くにあるか否かと言うことです。私の子供の頃の遊び場は産土神様の境内、鎮守様が多かった様に思います。そこには大抵英霊の招魂碑があり、父母には産土神の由来や招魂碑のことを教えられ、自然に手を合わせるようになりました。果たして今の日本にこんな信仰的土壌がどれだけ残されているのでしょうか。そんな意味から、前述の表現をさせていただいた訳です。

今の子供は、冷蔵庫やレンジにお参りしておやつを戴くのでしょう。

我が家の孫達も、来ると必ず仏壇のある二階に上がって行きます。仏壇には必ず線香を立てます。一本や二本なら結構なのですが、纏めて何本も線香を立てて、挙句の果てに灰を散らかされるのは困りものです。勿論ライターやマッチは隠してありますが、彼らには極めて楽しい遊戯なのでしょう。しかし例え遊戯であっても、必ずご神前や仏壇の所に行くと言うのは結構なことだと思っています。

リーダーの皆さんは、若し、私のグダグダと書き綴ってきた事に少しでも共感いただけますなら、ご自分のご家庭から始めて見て下さい。そして、

スカウトと共に歩くあちこちの町並みや野営場、施設で、上述の様な神社や仏閣、招魂碑・慰霊碑があったら、お参りする習慣を醸成して上げて頂ければ有り難いことです。父兄の皆さんにも情熱と誠を込めてお願いをして戴きたいものです。野営場での弥栄も同じです。心からの感謝をこめて捧げたいものです。

全ての自然や場所や物に”霊性”を認めて、感謝し、大切に接することをお教え戴きたいものです。日々のスカウトゲームでも、必ず勝敗や技術の習熟度のみを判断するのではなく、そこにどんな助け合いや、お互いへの感謝があったかを確認して誉めて上げて戴きたい。そしてゲームに使った道具の成り立ちや、どんな苦労や工夫をして作られているのかもお語り戴ければスカウト達も興味を持ったり、大切にしたりする筈です。

私のことを言えば、当然オーラも何もありません。利他愛の心はあっても、それを常に実行できるだけの体力も気力も絶対的に不足です。そんな私が、大それた提案をするのですから、先達の方々も笑っておられることでしょう。

質問③について

これは、②に書き連ねた事柄と重複いたしますので省略しますが、日本連盟の方々には、私の言う様な事は、当たりの事として、当然実践されているものとしてのご提案なのかもしれません。

しかし、どんなに強力な武器ができて、それを扱う兵隊のレベルが低いと、その武器の威力は半分以下になってしまうのは歴史が証明しています。中東戦争や湾岸戦争などでは、ソ連製戦車は欧米の戦車に比べ”kill rate”が全く違います。

質問④について

制服を着ると、私をも含めて全員が立派なリーダーに見えます。しかし、ロープワーク一つにしても、私は全く自信がありません。ですから私の実態は体裁だけのリーダーにすぎません。でも、

こんな私をも信頼してくれる人たちもおられるのですから、その期待をすべての面で裏切ることには大変に申し訳ない事と思います。ですから、私は、せめて信仰面でのお世話ができれば良いかなと思って今日まで努めてまいりました。それともう一つ救急法のスカウト社会への広布伝達でした。未だ未だ先は長く遠いものではありませんが、スカウトの救急法講習会にお手伝い下さるスタッフの大部分の方が、“日赤救急員”の資格を得た方達で占められる様になり、又、最高な事には私の跡継ぎに成ってくれる指導員も出来ました。有り難いことだと感謝しています。ここ迄になるのに30余年が掛かっています。信仰指導と言うのは、それ以上の年数を掛けて、気長に自分の魂を向上させつつ取り組まねばならない問題だと思います。世の中多くのその面での指導者がおられますが、その方々とも相談したり、後ろ姿を拝見しつつご指導に当たって戴きたいと思えます。特効薬ありませんし、時間短縮も余り期待できません。あくまで自分の感性や霊性を磨きつつ、進むしかないと思えます。そのためには、先ず何事も感謝と誠を尽くす生活からです。感謝と誠の無い所には何も花は咲きません。

私は、自然観察を続けさせて戴く中でも多くの神様の摂理を教えられ、大変に感性を磨かれた様に思えます。感性が磨かれてくると霊性も伴ってくるのではないのでしょうか。そして霊性が向上してくるとまた感性が更に豊かになってくるのではないかと考えています。

また、様々な分野の多くの先覚者の著書を読ませて戴くことで、その鋭い洞察や、美しい表現に驚愕し、魂を洗われたことでしょうか。どんなに心の目も実際目の目も開かせて戴き、感動を与えられているか計り知れないものがあります。この感動も感性を豊かにして戴け、自分の歩むべき道を示して戴けるものと思っています。多くの書物に触れて下さい。

そして、最後に申し上げたいのは、スカウト活動は、多くのリーダー達、そしてスカウト、父兄、

地域社会との共同作業です。何事にも、誰に対しても感謝の心で取り組んで戴きたいことです。スカウトは小さな紳士なんです。共に進歩向上の道を歩む仲間です。このことは是非とも心に常に刻み込んでおいて戴きたいのです。そして“噴水は水源よりは高く上がらない”と言うこともお忘れなく。

更には、人を批判することで自分が上位のような錯覚を抱く人も見受けられます。この錯覚こそ自分の人格向上にとって最悪のものです。謙虚さと感謝の無い人には人格的進歩はありえないものと私は思っています。

“人は皆自分の師！”吉川英治さんの言葉です。スカウティングの中で、何か行事に取り組む時、担当された他のリーダーの企画や出来栄を批判する前に、そのご努力に、先ず感謝の心と目で見える事から始めると、随分世の中が変わってきますよ。こんな心掛けが常にあり、それが当たり前のことようになって来たら、その人は素晴らしい信仰指導が出来るリーダーの素質が出来ているのです。その時は、直接何らかの特定宗派に属していなくても、必ずその内に、その人の魂に相応しい信仰を持たれる様になれると思えます。誠を尽くし続ける人は、人間の限界を遥かに凌駕する”導き手”に必ず巡り合う筈です。時間の長短は勿論あるでしょうが。

◎先回の原稿の最後に“富”という言葉を使わせて戴きましたが、これは単なる“お金、マネー”と言うことではありません。人類が今日迄作り上げ、守り続けて来た全ての文化、芸術、思想、建造物、文明の利器など一切の財産や叡智のことを意味しているものです。不用意に”富”と言う言葉を使いましたことをお詫びと共に説明させて頂きました。

平成26年3月20日 母と姉の月命日の日に。

(編集上の理由から筆者のご了解の下、
部分削除をしました。)